

カナダ人の 発明発見(Ⅳ)

冬を暮らす知恵(1)

カナダでは、毎年十一月から翌年四月末にかけて、大部分が雪におおわれてしまふ。そこで人々はその長い冬を、できるだけ快適かつ安全に、そして効率よく過ごすようと努力する。厚着を用意し、車に「防寒装置」(スノー・タイヤ、暖熱器、ガラス除霜器など)をとりつける。

冬の車はガソリンを多く消費し、家の暖房にもより多くの石油、ガス、電気が必要だ。家は断熱材と二重窓でしっかり寒気を防げるように作る。除雪器などを買って備える人も多い。スポーツ愛好者は、スケート、ホッケー・ステイック、スノーモービルといった用具や、それぞれのスポーツに合った服を用意する。

冬に対処しようということから、いくつかの技術や産業が生まれた。例えば、カナダでは年間二百万足のスキー靴が生産され、アメリカ市場で大きなシェアを占めている。

カナダは女性向きの革または人工革製のファッションブルなブーツの生産で知られる。晩秋から初春にかけて、カナダは非常に寒く、また地面がべとべととして、スエードや革製のブーツだと

台無しになってしまう。そこで、内側にフェルトを張ったステイッチなしのブーツが創案された。

カナダの毛皮も、品質とデザインが良く、世界的に高く評価されている。毛皮のコートはぜいたく品だと考えられているが、寒さに強く、冬にはもってこいだ。カナダの毛皮衣服産業界は、一九七八年、製品の四〇パーセント近くを輸出した。輸出額は七千二百万ドルに上った。現在好評を得ているのは、きつね、コヨーテ、たぬきの毛皮である。

カナダでは、連邦政府だけでなく、州政府や市町村当局も冬に必要な技術や機器の開発と普及に大きく協力している。

例えば冬になると車の燃料効率が二〇パーセントも下がるが、それに対処するための実験が行なわれている。エンジン室の熱管理を改善し、寒くなくても固まらないギアおよびトランスミッション用潤滑油、燃焼室の排気ガスを処理し、余分の汚染防止装置を要しないエンジンの設計——それが眼点である。

エネルギー節約の観点から、住宅の暖房に対する関心も高まった。政府は、広報活動を通じて石油とガスの賢い使い方を奨励している。

また連邦政府は自家居住者に対し、新しい断熱材を設置する費用のかなりの部分を補助している。「省エネ」というプログラムもあって、断熱の経済的効用を説き、効果的な断熱の方法について具体的にアドバイスしている。

断熱材には、ガラス・ファイバー、ポ

ロ紙、発泡スチロールなど各種あり、需要も多い。連邦政府の機関である国立科学研究所(NRC)では、いろいろな断熱材を検査し、あるいはその品質を見わたるための基礎的な技術情報を業界および消費者に提供するなどしている。カナダで販売されるすべての断熱材は同研究所の実験結果をもとに作られたR評価(R評価が高いほど、耐熱度は高く、したがって断熱効果は大きい)を標示しなければならない。

NRCでは、また、家庭用暖房器の効率を高める装置も開発した。小型の固定式サーモスタット・タイマーがその一例である。これは、通常のサーモスタット(一定の温度に達すると自動的にスイッチが切れる装置)の下の壁にとりつけ、電源に差し込んで、簡単に前もって決めた時間(二十四時間以内)に室温を上げたり下げたりできるようにしている。これだと、三十ドルの費用(予定価格)で、年間の暖房費を一割安くできるはずである。

暖炉が効果的に燃えているかどうかを計るメーターも開発された。これまでにいくつかの計器を使って火加減を調べていたが、それでは面倒だし、時間もかかる。ところが、新しい装置を炉とタンパー(節気弁)の間の熱気送管にとりつけるだけで、いろいろな計測が一度にできる。暖炉の働きが悪い大きい理由のひとつは、これまでの試験装置の性格と価格による。新兵器により、熱効率はぐんと高まるはずである。

編集後記

○昨年五月に誕生した久しぶりの進歩保守党内閣は、わずか七か月目で不信任され、カナダでは厳冬のさ中、再び総選挙が行なわれることになった。四〇才の若き宰相として、東京のサミット会議でも注目されたクラーク氏であったが、多くの国内問題を抱えながら過半数の議席をもたない弱味から、早々と解散に追い込まれてしまった。はたしてクラーク氏の再選なるか、トルドー氏が再び咲くか、あるいは西部諸州に地盤をもつ新民主党のプロードベント氏に白羽が立つか。

○選挙と相まって注目されるのが、ケベックの州民投票。州民投票の結果、支持が得られればレベック首相はカナダと新しい関係(主権・連合)について交渉するというのが、州民はどういう選択をするだろうか。今号は、ケベック州政府の主権・連合に関する提案を抄訳して掲載したほか、毎日新聞社の北畠外信部副部長にケベック問題の専門家で、現在筑波大学などで教えているセイウエル教授と会見していただき、ケベック情勢を解説してもらった。

○多くの方々から新年のごあいさつをいただきました。失礼ながら、紙面を借りてお礼を申し上げます。読者各位のご健康とご活躍をお祈りします。(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒100東京都港区赤坂七丁目三三三八

カナダ大使館広報部